

2015年度
埼玉地区主題

主にある交わりを
深めよう

日本基督教団関東教区 埼玉地区通信

2016年3月20日
発行人 日本基督教団 関東教区
埼玉地区委員会
委員長 川 染 三 郎
鴻巣市東1-1-27
<http://www5b.biglobe.ne.jp/~saitama/>
印刷所 (株)シャローム印刷

埼玉地区新年合同礼拝

埼玉地区委員長 川 染 三 郎

二〇一六年の新年合同礼拝が一月十一日(月・祝)に、上尾合同教会を会場として行われました。新年合同礼拝は二年サイクルで、各最寄り三区で礼拝が行われるときと、三区が合同で礼拝を行うときがあります。今年は、三区が合同で行い、六十一教会・伝道所が一堂に集うことができました。しかしながら、地区の全教会・伝道所が一堂に会し、礼拝を守ることができた教会の会場探しと、その準備は大変でした。幸い、上尾合同教会が会場と交わりの軽食の用意を、そして式次第などの印刷を埼玉新生教会が引き受けてくださり、感謝でした。今回、この合同礼拝を六十一教会・伝道所の出会いと交わりの場にしたいと思ひ、会場教会には、軽食の準備をお願いしました。出席教会は五十四教会(うち埼玉地区は五十二教会・伝道所)、出席者は二五八人でした。

☆

説教者は、金城学院大学教授であり、現在埼玉大通り教会の代務者の深井智朗牧師でした。



「あとになってわかること」と題して、聖書の箇所はヨハネによる福音書十三章一〜七節に基づいて説教がなされました。説教は、感銘深い例え話がいられ、信仰の心が動かされるものでした。

礼拝形式は上尾合同教会の礼拝順序を取り入れて、礼拝の司式は本教会の石川榮一牧師でした。

説教前の子どもへのメッセージを狭山教会の森淑子牧師がされました。メッセージは、子どもたちに噛んで含めるように語られました。メッセージの後、子どもたちには、別室で特別のプログラムがもたれました。

この礼拝形式はいくつかの教会で試みられていますが、信仰を継承



する者を生み出す試みとして大事なものとしました。礼拝に出席する信徒の子どもたちの信仰を養うために取り組むべき課題ではないか、と思います。



たね

◆当教会「裏庭クラブ」は順調！畑を耕す人、自宅庭の土を提供する人、種を寄付する人、種を植える人、育てる人、できた作物を収穫する人、食べる人、収穫物を買う人：皆、自由に関わっている。

◆子どもたちの働きも大きい。礼拝が終わると「今日のお仕事はありますか？」ときいてくれるG君とT君兄弟。求道者のパパも参加してすっかり裏庭クラブのスタッフに……。初めて来た親子も礼拝の後、裏庭に寄ってから帰るのがお決まりコース。

◆作物を育てていると、うまくいくこともあれば、うまくいかないこともあることをダイレクトに体感する。「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神」ということを実感する。

◆今春、礼拝と裏庭クラブを楽しんでいた親子が転居する。別れの寂しさに勝って、離れていても「神の家族」であることの確信が今、教会に満ちている。

(田中かおる)

☆

聖餐式は、上尾合同教会の秋山徹牧師(司式者)と東所沢教会の指方周平牧師(補助者)が務めました。この聖餐

には二百人を超える方々があ
ずかり、それぞれ別々の教会
の信徒でありながら、かしら
なるキリストの御体の肢であ
ることを体験することがで
き、キリストにあって一つで
ある事実を共有することがで
きました。

二百人を超える地区内の牧
師・信徒と一緒に聖餐の恵み
にあずかったことに感慨深い
ものがあります。



☆

礼拝後に、今年成人式を迎

えられた方に対しての祝福の
祈りが地区委員長の川染三郎
牧師(鴻巣教会)によってな
されました。



☆
今年、坂戸いずみ教会の
二人の兄弟が多くの人の前で
祝福の祈りを受けました。礼
拝にあずかった子どもたち、
そして若い青年たちが埼玉地
区で育てられ、成長している
姿を見ることができ、この神
の恵みの御働きに支えられ
て、新しい年の埼玉地区諸教
会の歩みがなされることに大
いなる主の励ましを感じまし
た。

☆

その後、礼拝堂の隣のホー
ルに場所を移して楽しい交わ
りのひと時がもたれました。
今回は上尾合同教会の皆様
よって美味しいカレーや手作
りのゼリー、そしてお菓子や
飲み物などが用意されまし
た。

今回、茶菓だけだと残る人
が少なくなるかもしれないと
思い、軽食を出していただけ
ないかと相談いたしました。
サンドイッチやおむすびなど
を買い求めていただいたても、
と。

しかし、カレーを作ります
と申し出てくださり、一皿に
カレー・サラダ・果物などが
盛られ、立食パーティーにな
りました。地区からのできる
だけ多くの方々と交わりい
ただきたいとの願いに沿っ
て、あちこちで出会いと交わ
りがもたれていました。この
希望に沿ってくださった上尾
合同教会の方々には、大変お
世話になりました。

☆

今年もまた新しい年の始ま
りがこのような地区の一致と



☆
連帯の象徴とも言うべき豊か
な礼拝と交わりを持つてス
タート出来ましたことを深く
感謝致します。

埼玉地区委員会では、地区
六十一教会・伝道所の連帯の
ため、さらなる協議を続けな
ければなりません。連帯とは、
埼玉地区規則(目的)第二条、
「この地区は、日本基督教団の
教憲教規および同教団の規
則、関東教区の規則の定める
ところに従って、地区内諸教
会・伝道所の一致と連帯の強
化に努め、福音の前進に仕え
ることを目的とする」とある
ように、「福音の前進」に志
を一致させることにありま
す。



☆
新年礼拝の出会いと交わり
がその第一歩でした。その出
会いと交わりによって、互い
の事情が分かりあえる道が開
かれたと言えるのではないで
しょうか。さらに、互いの課題
を共有し、その課題の重荷を
担い合って前進したいと思
います。

祝 挨拶

挨拶を受けて

越生教会 江田めぐみ



挨拶を受けて、私を召し導き、そして牧師へと育ててくださった神さまに感謝いたします。

伝道師として、教会に仕えている時には、さまざまな試練や、困難に直面しました。この時に与えられた御言葉は、「あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神です。何事も、不平や理屈を言わずに行いなさい。」(フィリピ二章十三〜十四節)。

行動より不平や理屈の多い私でしたが、この御言葉によって、神さまの御心に従って歩む者に変えられつつあります。

挨拶礼の中で、私の頭の上に置かれた正教師の先生方の手はずつしりと重く、これからの正教師の務めの大きさが感じられました。これから、福音の宣教を担うために、主イエス・キリストの業を受け継ぎ、主が与えてくださった分に応じて、御言葉に聴き、御言葉を伝え、神の恵みに応えて行く者でありたいと思います。

✠信教の自由と平和を
求める2・11集会報告

行田教会 清水 与志雄

恒例の二・一一集会が二月十日、埼玉和光教会で開催され、東京基督教大学教授の山口陽一氏が「日本にあるキリストの教会の政治的責任―いま立つべき」と題して講演した。九十五人が出席した。

山口氏は、戦時下、「文字通りバアルに膝をかがめた」と指摘し「教会の罪責」を確認した上で、ローマ書十三章と「抵抗権」について考察。

所謂「上に立つ権威」が良心を侵害するような場合、「人」のためにある「国」が「いのち」を奪うなど機能不全に陥った場合は「抵抗権」を行使しなければならぬとし、憲法違反もこれに相当すると述べた。教会は、神への服従を忘れた政治運動、政治に関わらない信仰や政治的自己規制ではなく、より良き政治のために祈り、行動する責任があると強調した。最後に、「わたしたちは今、態度決定を問われている」と結んだ。

(社会委員会委員長)

✠三区合同教師会報告

国際愛伝道所 許 昌範

三区合同教師会が、一月二十五日(月)に川越教会においてもたれました。

地区内の教会に仕える教師が一堂に集まるのは、七月の教師一泊研修会と三区合同教師会です。これは貴重な集会の時と心得て、教師委員会では毎年、会の企画をしてみました。今回の教師会は、会場教会の木ノ内一雄牧師(川越)の説教による開会礼拝で始められました。



その後、野村忠規牧師(東松山)によって「私の伝道論―洪柿から甘柿へ」と題して講演がなされました。

野村先生は地区の副委員長として、地区の教会の伝道の証しを考える必要を、ご自分の経験を通して語られました。落語が趣味と言われる野村先生、はじめから終わりまで爆笑の連続でした。「洪柿から甘柿へ」は洪柿はそのまま食べられないので、皮をむいて干したら甘い干し柿になり、美味しく食べられます。それと同じように格好付けたら伝道は出来ないことを分かりやすく語り語られました。

説教のことについても、完璧主義の野村先生を奥様が「あなたの信仰を見たら、ネクタイを締めるみたいに、自分の首を自分が締めている」と言われたと、笑いながら語られました。また、事前に二十五人の先生方の申し込みがありました。当日は、三十五人の先生方が参加してくださいまして、食事の準備が忙しかったと食事の担当の先生からも笑い話がありました。

最後に、埼玉地区委員長の川染三郎先生(鴻巣)から地区の課題として、地区の教会の格差について指摘がありました。地区内の教会について教師委員会が調べて欲しいという話がありました。

終日、教師の学び・交わりが豊かに与えられ感謝でした。それぞれの先生方のお働きに感謝し、これからも地区の教会が祝福され、神の栄光のためによい働きが出来ますように、お祈り申し上げます。

(教師会委員長)



特集

今年度からしばらくの間、この「特集」のページを埼玉地区六十一教会・伝道所を知るページとして用いる事で地区委員会の承認を得ました。各教会・伝道所のお互いを身近に感じ、知り、「主にある交わりを深める」一助になることを願っています。

教会の今、課題と展望

東大宮教会 久保島 泰

東大宮教会は一九七一年五月二十三日に大宮教会を親教会としての伝道所開設から十四年目を迎えています。

昨年度、二十五年間牧された山ノ下恭二牧師に代わり、久保島泰、理恵牧師が着任しましたが、東大宮教会宣教方針は改革長老主義の伝統に立つという点で変わることなく継続されています。

一つ大きな変化もあります。教会学校でいわゆる分級の枠を外し、自由な遊びの時間の「プレイタイム」とし、かつそれを礼拝に先だつてすることとしました。カードゲーム、ボードゲーム、またお手玉やけん玉などを用意しており、子どもたちと大

人たちが思い思いに遊んでいます。最近はお絵かきコーナーもにぎわっています。



東大宮教会は、児童養護施設「光の子どもの家」との連携を大切にしてきました。教会学校の生徒のほとんどをしめる「光の子どもの家」の子どもたちにとつて、「教会に行けば遊んでくれる、ここにも信用できる大人がいる」ということが少しでも生きる力になつてほしい、と願うからです。

高齢化に伴つて、礼拝出席者の減少などの課題もあります。が、人の思い悩みをはるかに超えて、主の御心こそが顕されることを信じて、この地での伝道の御業のために歩み続けたいと願います。

坂戸いずみ教会の今、そして課題と展望

坂戸いずみ教会 山岡 創

「ただいま」、「お帰り」、「行つて来ます」、「行つてらっ

しゃい」。坂戸いずみ教会の玄関では、特に若い人たちの間でそんなやり取りがなされています。それは、教会を自分たちの家のように意識しているからです。

切にし、その交わりの機会を立ち上げること、求道者を焦らず丁寧な受洗へと導くこと、青年・中高生の信仰を中高生会やサムエルナイトによって育てることを考えています。



教会は、互いに愛し合う神の家族。私たちは、イエス・キリストの御言葉から、そのように受け止め、そのようにありたいと願っています。

今、いちばんの課題は小学生伝道。牧師家庭の子どもたちが皆、中学生以上になり、地域の小学生との接点がなくなりました。良い伝道アイデアが与えられるようお祈りください。

信仰の喜びを共にする群れとして

和戸教会の現状と展望
和戸教会 三羽 善次

一月最後の礼拝の中で、一人の方の洗礼式がありました。昨年のクリスマス直前に洗礼を決定されたのです。洗礼式後、歓迎愛餐会をしました。その席で教会員の方々に、洗礼を受けた頃の話を一人数つして頂きました。

それぞれが洗礼に至るまでの証しを聞きながら、神さまの恵みが様でなく、彩りが豊かなことを思われました。

そして色々な人生の行路を経て、今この教会に集められて、共に礼拝に集まっていることの喜びを共にかみしめました。

どの教会でも教会員の高齢化が目立ってきていますが、こ

このことを後ろ向きに考えるのではなく、神さまの恵みを共に紡いできたことの喜びを分かち合っていることを、人生の喜びとする、そんな信仰の交わりをしっかりと結んでいきたいと思ひます。また神さまの御言葉を通して、自分の生と死を信仰によって受け止める群れでありたいと思ひます。

和戸教会では毎年、音楽伝道コンサートを開いています。この会を楽しみにしているという地域の方々が勢集まつて下さいます。コンサートの後、手作りケーキと紅茶で歓談するのも好評です。教会バザーも毎年、婦人会と壮年会が協力して開いています。

さらに地域の方々に開かれた教会形成を、探っていきたいと思ひます。



地区委員会報告

災害対応委員会の総意としての解散を承認した。

出席者、二五六人、五十四教會伝道所（地区内五十二）

会場 埼玉新生教會
出席 十人 陪席 無

編集後記

この一年も、多くの方々が原稿依頼を快諾し、ご協力くださいましたことを感謝します。

今号は、三区合同で開催した新年合同礼拝の様子、按手を受けられた教師のご紹介、そして社会委員会、三区合同教師会の集會報告を寄稿していただきました。

今年度の「特集」のページについて、委員会は、現在六十一教會・伝道所となっている地区内の各教會・伝道所の「今・そして課題と展望」をご紹介いただくページとすることを話し合いました。このことを、

地区委員会の承諾を得て、毎号三教會に原稿を依頼し、今年度は、九教會をご紹介できました。

地区の「主にある交わりを深めよう」の主題の下に、地区内の教會・伝道所がお互いを知り、身近に感じながら「連帯と一致」の歩みが確かなものとなる一助でありたいと願っています。

春の兆しを身に感じる日々の中で、主イエス・キリストのご受難と十字架の死への歩みを思いおこしつつ、四十四―三号の編集を終え、感謝してお手もとにお届けします。（茨木）

二〇一五年度第五回委員会
日時 十一月十日（火）
会場 埼玉新生教會
出席 九人 陪席 無

八、諸委員会任期再考の件
地区規則変更を伴う議案故、三役会での継続審議を承認した。

二、教會伝道所「教師謝儀互助」申請の件
鳩山伝道所、深谷西島教會、加須教會、羽生伝道所より教区教會互助「教師謝儀互助」の申請を受け推薦すること

●その他の報告
◎教区常置委員会（二月二日）の報告
互助申請について、すべて承認した。

◎一月十九日から二月十四日までの會計報告があった。

●會計報告
九月十三日から十一月十日までの會計報告があった。

九、地区総合協議会の件
二月十二日（金）十九時より埼玉新生教會で開催することを決定した。

三、地区総会に関する件
日時場所の確認と準備・当日役割分担を決めた。

◎教団伝道資金（四十万円）を伝道會計に受け入れた。

◎二月二十五日（木）に西川口教會で會計監査を行う。

●主な協議事項
一、新年合同礼拝に関する件
日時場所の確認と準備・当日役割分担を決めた。

十、教師退職年金互助申請の件
深谷西島教會・竹内紹一郎牧師からの申請（二十五万円）を承認した。

四、教団伝道資金に関する件
地区が主体となって用いることができる伝道支援金について、理解を深めた。

◎二月二十五日（木）に西川口教會で會計監査を行う。

◎二月二十五日（木）に西川口教會で會計監査を行う。

二、伝道所との懇談会の件
来年度から小規模教會を含めた懇談会として開催できないか検討することにした。

閉會祈祷 久保島泰

五、教師退職年金互助申請の件
深谷西島教會に続き、加須教會、本庄旭教會から申請を受け、推薦することを承認した。

●主な協議事項
一、地区総会の件
推薦正議員、准議員、推薦准議員の名簿について確認した。

◎一月十九日から二月十四日までの會計報告があった。

三、奏楽者派遣の件
鳩山伝道所の要望を検討し、教會音楽委員会に対応を一人任した。

●地区内の教會・教師の報告
菅浦教會の代務者として都築英夫牧師が就任予定。

六、地区伝道支援金申請
久喜復活伝道所より案内看板と収納庫設置のために五万円

●その他の報告
◎一月十九日から二月十四日までの會計報告があった。

◎一月十九日から二月十四日までの會計報告があった。

四、教団伝道資金に関する件
本件は伝道委員会で検討する。

●その他の報告
「地区規則変更の件（諸委員会任期に関する事項）」については、次年度の課題とする。

七、沖繩で開催予定の関東教区「日本基督教団罪責告白」を考える集いの件
援助協力について今回は見送ることを承認した。

●閉會祈祷 田中かおる

◎一月十九日から二月十四日までの會計報告があった。

五、クリスマスプレゼントの件
七教會七名、隠退教師十二名、合計十九名、総額十三万円

●會計報告
二〇一五年十一月十一日から二〇一六年一月十八日までの會計報告があった。

●閉會祈祷 田中かおる

●閉會祈祷 田中かおる

◎一月十九日から二月十四日までの會計報告があった。

六、二〇一六年度関東教区総会設営（埼玉地区）の件
奉仕分担とスケジュールについて教区書記・主事と検討を進めることを確認した。

●閉會祈祷 田中かおる

●閉會祈祷 田中かおる

●閉會祈祷 田中かおる

◎一月十九日から二月十四日までの會計報告があった。

七、災害対応委員会解散の件

●閉會祈祷 田中かおる

●閉會祈祷 田中かおる

●閉會祈祷 田中かおる

◎一月十九日から二月十四日までの會計報告があった。

●主な協議事項
一、新年合同礼拝開催の反省と申し送りに関する件

●主な協議事項
一、新年合同礼拝開催の反省と申し送りに関する件

●主な協議事項
一、新年合同礼拝開催の反省と申し送りに関する件

●主な協議事項
一、新年合同礼拝開催の反省と申し送りに関する件

●主な協議事項
一、新年合同礼拝開催の反省と申し送りに関する件

特集

婦人部だより

No.34

★全体研修会報告

神のなさる業

深谷教会 廣前 成子

七月六日(月)、埼玉新生教会を会場に、「主が共に働く宣教に仕え、福音の希望に生きる」を主題に全体研修会が開催されました。開会礼拝説教者は、秩父教会の温井節子牧師、講演者は東京基督教大学大学院教授の岡村直樹先生をお迎えしました。雨模様の中、三十四教会、百二十六人の姉妹方が集い行われました。

を理解することは門外漢とわかりました。「わたしのしていることは今あなたには分からないが、後で分かるようになる。」(ヨハネ福音書十三章七節)がお答えでした。

昼食を終え、二部は「病からの解放」(ルカ福音書八章四十三〜四十八節)、不治の病といわれ、十二年間長血に苦しんだ女が病を癒して欲しい一念で、イエスさまのみ衣の房に背後からそつと触って、長血が癒されただけでなく、心の病も癒された神のみ業を教えられました。私たちは、試練にあつて神を知り、愛を知り、自分を知り、神の永遠の救いのご計画に与っているのです。イエスは「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。」(四十八節)とおっしゃいました。

主が共に働く宣教に仕え、福音の希望に生きる

婦人部委員長 酒井 博子

今年度、地区婦人部委員長の
大役をお引き受けする事になり、不安と畏れを覚えつつ、「二人ひとりの力は弱く乏しくとも、主が共にいてくださる」との言葉に支えられて、お従いしてまいりました。

極的なご意見を参考にしながら委員会でも検討した結果、十分な内容の会は無理ではないかと考え、次年度に限り中止することにいたしました。なお、教区婦人会連合の修養会準備は、二人の協力委員を加えて進めております。修養会会場となる深谷教会・深谷西島教会にもご協力を頂いております。県内諸教会の中でも、なかなか行く機会のない県北の教会の姉妹方を覚えて、共に学び、恵みを分かち合いたいと思っております。一人でも多くの姉妹方のご参加を期待しています。

開会礼拝は「自然災害と神」と題し、今私たちは地震・豪雨・干魘にと翻弄されています。神さまは何故?との問いに、神さまは「わたしは天地を創造した、支配するのはわたしの領域」。天変地異は神さまのご計画の中に有り、私たちが神さま

「目の前に立ちほだかる壁を越えて」ルツ記一章十四〜十八節を通して、ルツの生きた時代背景を先ず語られ、夫に先立たれたルツは姑ナオミに仕えることを決意して、今まで住んでいた地を離れ、亡き夫の故郷ベツレヘムへ帰ります。嫁と姑の関係は今においても、永遠のテーマであり大きな問題です。しかし、ルツは心から姑に仕え、「わたしはあなたの行かれる所に行き、お泊まりになる所に泊まります。あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神。あなたの亡くなる所でわたしも死に、そこに葬られたいのです。」と、絶望と苦悩の中で愛をもつてナオミの世話をします。ピンチに陥ったと思われる絶望を神は希望へと変えて下さいました。図らずも誠実なボアズに出会い結婚に至り、ボアズとルツの子孫としてダビデが生まれ、イエス・キリストに至る祝福を与えて下

さつたのです。ルツの真摯な信仰、そして美しい人間関係が信仰生活において根ざし、主の恵みの中にいることを教えられました。

【関東教区教会婦人会連合総会・修養会のご案内】

*日時・六月二日〜三日

*会場・埼玉グランドホテル深谷

*講師・大津恵子氏

深谷といえばネギ?だけじゃない!福音伝道百周年を迎えた深谷教会で、パイプオルガンの音色に耳を傾けつつ、修養会での御言葉を思い巡らし、心満たされて帰途について頂きました! 準備中です! — 詳細は、後日のご案内で —

年間
の主な行事は、四月総会、六月関東教区教会婦人会連合総会・修養会、アジア学院研修生のホームステイ・プログラムに協力、七月は全体研修会、十月には七ブロックもより婦人研修会、ACWCJ(アジア教会婦人会議日本委員会)一日研修会、そして三月はNC(日本キリスト教協議会)女性委員会主催の世界祈祷日集会を持つことが出来ました。

毎年行う全体研修会について、二〇一六年は関東教区教会婦人会連合の修養会準備と重なることもあり、皆様からの積

講演を聞いて、「伝道の書三章十一節」のみ言葉が浮かびました。「神のなされることは皆その時にかなって美しい。神はまた人の心に永遠を思う思いを授けられた。それでもなお、人は神のなされるわざを初めから終わりまで見きわめることはできない。」(口語訳)

研修会に参加された姉妹方が満たされ、恵みのうちに帰路につかれました。主に感謝。

もより婦人会研修会

☆第一ブロック

主の前で踊る

浦和別所教会 栗原 初音

十月三日(土)、当教会にて、六教会三十四名の参加がありました。開会礼拝は、田中かおる牧師によりマルコ四章一節〜九節を学びました。蒔かれた種には命があり、良い地に落ちれば百倍の実を結ぶこと、そして福音の種を蒔く時、困難を伴うが精一杯蒔き続けることで、神の御業がなされると教えられ希望や力を与えていただきました。

その後、中野めいこ師より神さまの御業をたたえる「賛美ワラ」を教えていただき、参加者全員で「鹿のように」を踊りましました。聖書に記されているダビデや女預言者ミリアムのように身体全体で喜びを表し、主の前に踊る幸いなひとときを分かち合い、恵みに与ることができました。



☆第二ブロック

献上聖書

埼玉新生教会 小川 洋子

十月十七日(土)、当教会にて、八教会四十三名の参加がありました。開会礼拝では中村眞牧師が「主イエスと同じしるしで」と題し、主イエスと同じ洗礼に与った私たちの恵みについて語られました。

研修では当教会の國吉栄姉より「献上聖書」という講演題で、明治初期に天皇に献上された聖書を巡る教奇な歴史について話してくださいました。幕末の動乱期において、歴史上あまり陽の当たらないキリスト教にまつわる史実に引き込まれた一時間でした。

☆第三ブロック

もより婦人研修会

和戸教会 行川喜代子

十月二十四日(土)、当教会に七教会三十八名が集い、恵みのうちに楽しい交わりの時を過ごしました。

開会礼拝は、「キリストに結ばれて遣わされる」と題して三羽敦子伝道師に説教をしていただきました。その後、「人

生最後まで大事なものと題して、三羽善次牧師による講演がなされました。

昼食後、賛美体操「大波のよう」では力いっぱい、心を込めて、楽しく身体を動かしてリラックス。地区婦人部活動についての話し合いでは、各教会で話し合ってきたことを発表、意見交換をしました。

☆第四ブロック

当番教会になつて

鴻巣教会 藤村 由

十月三十一日(土)、当教会にて六教会二十六名の方々が参加しました。開会礼拝は、川柴三郎牧師によりみ言葉が語られ、研修講師は東大宮教会久保島理恵牧師によつて講演をしていただきました。共にみ言葉を学びました。

☆第五ブロック

まことの主の弟子の姿

東松山教会 福田 時子

十月十六日(金)、当教会を会場に八教会・伝道所から四十名が集められました。

メッセージは、野村忠規牧師が語ってくださいました。欠けが多く主イエスの目よりの人の目を気にしたり、自分の存在を主張し過ぎたり、極端に自分を卑下したり嘆いたり、信仰者としてこんな私でいいのかしらと思悩む私たちです。テキストからバルティマイという盲人が真の弟子の姿であることを学びました。主に従う時、信仰を失い無力にされる訳ですが、そのつど主に求めて真の目を開けて頂く者でありたいと思ひました。

☆第六ブロック

キリスト者の標識 愛

所沢みくに教会 高崎 和子

十月二十六日(月)、当教会を会場として九教会五十二名の参加者でした。場所が狭いため、一日の研修会は無理(分団等)なので、半日のプログラムにしました。

開会礼拝、講演は最上光宏牧師が、コリントの信徒への手紙一 十三章より、愛の賛歌。愛の尊さ、愛の特質、愛の永遠性を解りやすく話されました。質疑応答は多くの方が意見を述べられ、良き学びの時でした。

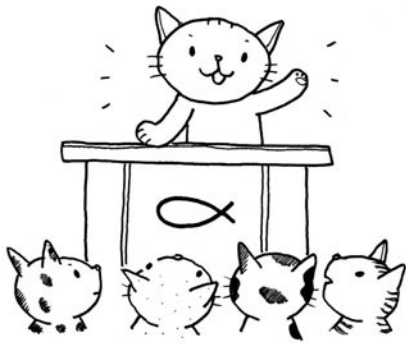
☆第七ブロック

神さまに仕えましょう

深谷教会 西岡まち子

十月二十四日(土)、五教会四十六名出席のもと、当教会にて、もより婦人研修会が開かれました。

開会礼拝では、当教会の保母光彦牧師より、救いのわざは人



にはできないが、神にはできる。唯、神を信じることによって、だれでも救われるということとを、医師でもある御自身の体験を通して語られました。

当教会の法元聖親牧師による講演は、「教会の中心は礼拝です。礼拝こそ、神さまにお仕えし、神さまと交わる場であり、隣人に仕えていく力をいただく恵みの座なのです」と、仕えることの意味を分かりやすく話してくださいました。

礼拝に集い、主と交わり、恵みの中に招かれて、新たに踏み出すことを学んだ感謝の研修会となりました。

**アジア学院研修生
ホームステイ
プログラム**

アジア農村指導者養成学校（アジア学院）は、アジア、アフリカ、太平洋地域の国々から毎年指導者の立場にある約三十人の方々を迎え、四月から八か月間、学院のモットーとする「共に生きること」の実践的カリキュラムの中で国籍、宗教、民族、習慣、価値観等の違いを互いに認め合いながら「仕える指導者」となるための指導を行っています。

研修生は、自国の地域社会の「共同体形成」のための生活様式を見出すことに励み、創造主から与えられた自然と土地を大切にし、「フードライフ」を日常的な経験の中で養うという指導者養成の研修を行っています。その様なアジア学院の年間研修計画の最初の研修として、私たちのホームステイプログラムが組み込まれています。

今年、六月六日（土）～八日（月）に実施し、土曜日の午後は早稲田奉仕園リバティールホールで婦人会連合の世界教会運動委員会主催の歓迎会をし、各ホストファミリーが紹介され、埼玉地区は、三組のご家庭が四人の研修生を迎えました。

**アジア学院研修生
ホームステイ報告**

☆インドの食を共に
 実行教会 齋藤 勝子
 インドからの研修生カピタさんを迎え、とても心が和みました。我が家の老犬が歩かないからと、ずーと抱っこして散歩してくださり感動しました。
 家庭集会では、自ら一緒に買い物をして、台所で共に調理に参加し、インドの食べ物を一緒に作りました。教会の方々に味わっていただき、本当に国際色豊かな食事でした。



新婚ホヤホヤなのに研修生として来日。ソーシャルワーカーの豊かな知識を得るためアジア学院での学びが、実りあるものでありますようにと、祈りました。短いひと時の中に神が共にいてくださった事を信じております。

☆今年の友は

所沢みくに教会 高崎 和子
 ジンバブエとフィリピンから二人の研修生がやって来ました。何も知らない遠い国の友との交わりの時を持てる事は、子どもたちも、また大人にとっても大事な時間でした。



ジンバブエはアフリカのどこ？上、下、真ん中、どこ？地図を描いて真ん中あたりと、教えられ、フィリピンの主食は何？「米」。日本と同じだ。言葉が違っても心で話して、身振り手振りで、また絵を描くなど、会話の方法は幾通りもあり、皆楽しそうに交流していました。
 日曜日の夕食は、教会員とお二人を交え、バーベキューパーティーをしました。この時は言葉が異なっても大丈夫。来年また！。

☆研修生をお迎えして

早稲田奉仕園リバティールホールに、ガーンナソロモンさんを家族みなでお迎えに参りました。



婦人会連合世界教会運動委員会主催の歓迎交流会では「コミュニティの中で、子どもとどのように関わっていますか」というテーマで、三人（ミャンマー、カメルーン、日本）の方々が発題し、その後、グループに分かれて話し合いをしました。そこに集う世界の人たちが皆、子どもや未来の地球のために、神さまに真剣に祈り求めている姿に接してわたしは励まされ、たくさんのお恵みをいただきました。
 二泊三日、大宮教会の皆さん守ってください、準備してください、ホストファミリーをすることによって、主にある深い交わりの時を与えられ、深く感謝しています。